



東日

國花萬葉記

空	空	空	共	共	一
周防	備中	播磨	石見	因幡	丹波
空	垂	垂	飛	共	九
長門	備後	美作	隱岐	伯耆	丹後
	垂	垂		共	五
	安藝	備前	出雲	但馬	

○山陽道 八箇國

○山陰道 八箇國

卷之第十三

ル 3
3671
21



門 3
號 3671
卷 21



本日

國花萬葉記 卷之十三

山陰道 八箇國

陰はわさ山おつて西へり國なり
故に山陰といふ 成勢元皇の御宇
よりして國縁をこころし邑里を定む
申すに山陰と背西といふり山陰の
名をこころし申すことなり

丹波國

丹 上愛六郡
四方二日

王城附庸の國なり 穀米菜菜勃
多し 中上國也

田數壹万八百五十丁

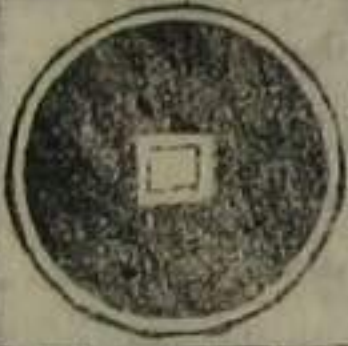
素田 氷上 船井

多紀 天田 何麻

知りし 計十八万八千七百七拾石

笹山河城主 如房 百廿七リ余

青山下野忠裕 青山州左の
堀内を以て
長四位信長 六万石
赤松を以て



丹波國 卷之十三

御舟下
上西所下
中ま山宿
下本所
下目しん
多うくは九六く下しん

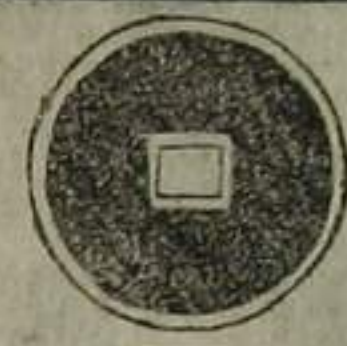


二平しん
らーや
かぶの
中あひま

押比豆
駕
山宿九方ら
居本又は右の

御
青山因幡忠良

相地くろ
ゆん白



舟内室心友山成
二平しん
あき
らーや
かぶの

駕
地こん

青山氏内家系

藤原忠成

此方おは成之と教代
くはくは成之と教代

忠裕 下世古

某 菟入舟 下世

忠良 因幡古

某 盛三郎子世

女子 牧野内通氏室

女子 二人 屋敷美徳古室
室女古女

寛永元ヨリ青山氏以之

龜山御城主

松平新祐
日 左一布

松平紀伊守信豪

松平新祐
日 左一布

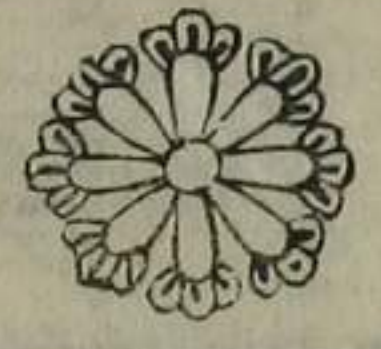


舟内室
舟内室
舟内室
舟内室

上二巻
下三田
舟内室

佳の
三光
白つげ

押比
ゆん白



御
御
御
御

地黒
ゆん白

松平氏御家系

源家忠

松平紀伊守

此方おは成之と教代
くはくは成之と教代

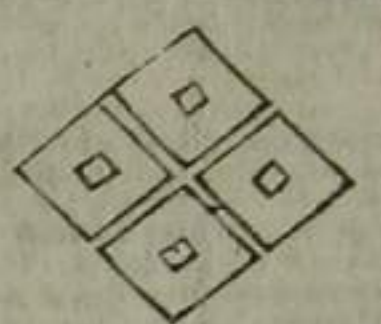
信豪

紀伊守

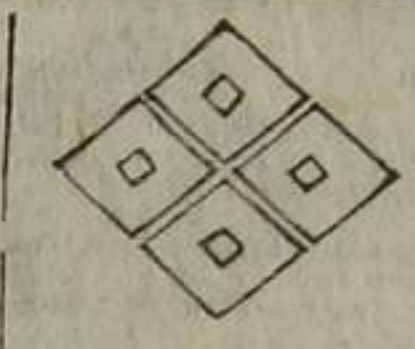
寛延元ヨリ松平氏以之

福知山御城主 以分四十二リ

朽木隠岐守綱條 三万二ふふ
 飯田加左の
 家 徳三郎



御内室松平右京左夫婿
 活也
 ・上介三つ目
 ・中つこ
 ・系彩所逐松平下止所



御内室
 御
 婿
 御
 内室

朽木氏御家系
 宇多天皇五世佐々木原三秀義四世
 隠岐守高任佐子以別朽木因若氏
 二十二世河内守元綱三男

源種綱 氏ア少輔
 其の弟は隠岐守と被代也
 之に子は其の末裔とす

綱條 隠岐守
 綱紀 近江守

寛文九ヨリ 朽木氏於之

園部御領主 以分百世一リ

小出信法と英發 二万六ふ七百十二ふ
 大田金左の
 出七左の



御内室松平内侍守姫
 御中礼
 ・上き一橋介
 ・下登天町
 ・系理井通松平下九ふ

御
 婿
 御
 内室
 御
 婿
 御
 内室

小出氏御家系
 藤原秀政 小出茂才
 大和守
 其の弟は隠岐守と被代也
 之に子は其の末裔とす

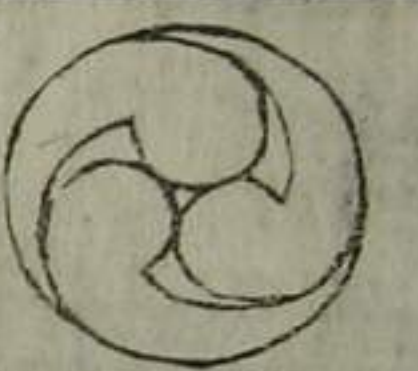
藤原秀政 小出茂才
 大和守
 其の弟は隠岐守と被代也
 之に子は其の末裔とす

英發 佐保守

元和八ヨリ 小出氏於之

後部御領主 以分百四十リ

御領主 以分百四十リ

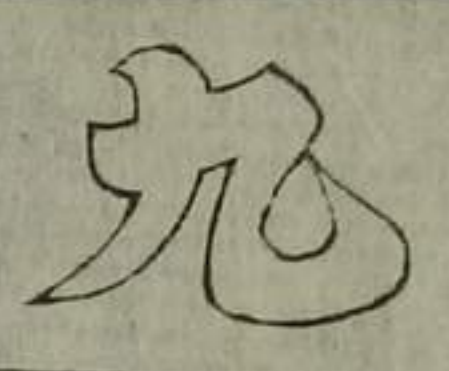


九鬼大隅守隆郁

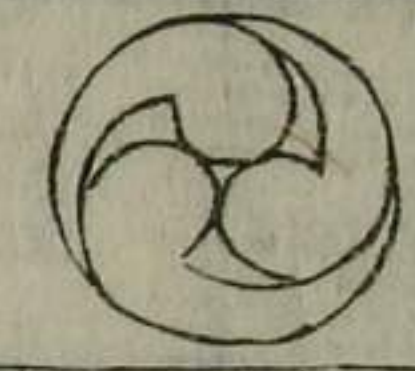
正万丸入百石

御内室有馬倉庫守姉

御座一き
・上八丁分り
・下本町本平松



相傳えん
おんごり
おんごり
おんごり



御内室

正家系ハお区三田所外主ト一系
寛永年中ハ九鬼氏外之

栢原御願主

以原ハ百廿六リ

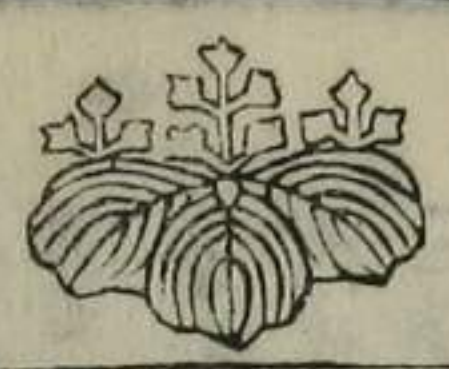


織田道江守信古

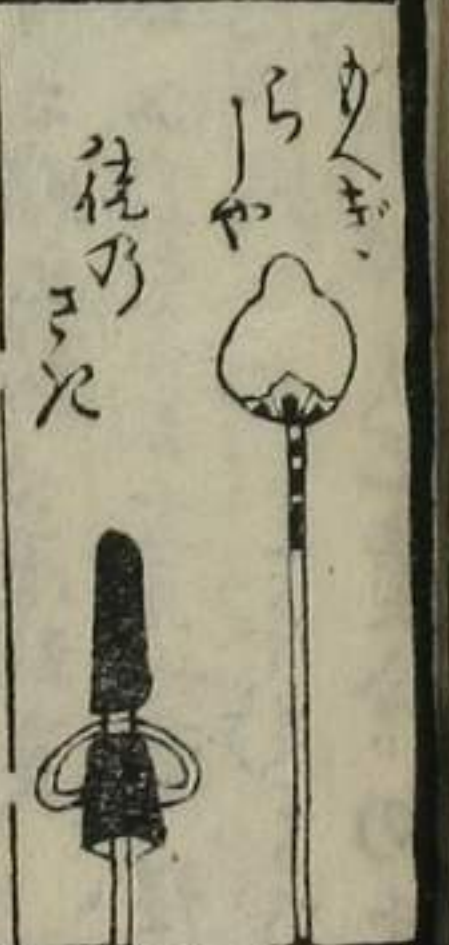
正万石

生駒至終
津田内室也

御内室 出雲又ハ山崎守娘
御座一丸
・上法州寺町
・下月 砂利坊



御内室



御座一丸
・上法州寺町
・下月 砂利坊

織田氏法家系

正二位内大臣平信隆二男

平高長

出雲守
後四位信長
此ハ高長公之御代也
此ハ高長公之御代也

信古

元禄年中ヨリ織田氏以之

山家御願主

百廿九里

谷播磨守衛助

正万八十二云余

谷 杖 儀
伏 束 儀



御中一丸
・上八丁分り
・下本町本平松
・弟大寺通リ三系上ハ

今伴將依天照大神と云く三座をす
妻秋吉彦乃の孫道子と云く乃貴姓
輝と云く乃の孫依家と云く乃と云く
榮輝と云く乃の孫と云く乃と云く
永と云く乃の孫と云く乃と云く

八幡宮

日影無村立 社殿石

八幡

志願石 社殿石

水尾大幡

日影無村立 社殿石

社

日影無村立 社殿石

使りて度小敷り支那此人の為小云云乃貴
比濃く灯着居と云たり後小云云乃貴
御又遣度使して度小敷り乃貴支那の坂
御と云大和云居立と云四座大和云云前
大和國云云云云

八幡宮

水上八幡村立 社殿 三十五石

芝岩山大幡

青山列 芝岩山 社殿

徳座オ一ます高船助ハ丹波の門くハ所
座の段ハ城國ハ所す仍ハ城國云云云

母上大幡

多祀船立 高社ハ女田満仲の

知く乃の幡

秋上船立 社殿 五拾石

美日大幡

石川 社殿 二十石

高社ハ慈山院交永年中ハ所ハ所ハ所
乃と云大和國三三三ハ所ハ所ハ所
と云美日乃の幡ハ大和國云云云

伯吉大幡

伯吉村立 社殿 四十二石

高社勤徳乃縁起ハ所ハ所ハ所
高社勤徳乃乃ハ所ハ所ハ所
ハ所ハ所ハ所ハ所ハ所ハ所

天田大幡

天田 社殿 廿五石

祭神 天照大神乃高祖陽成天皇の
御宇に於て二年に建立
古河三三 社殿十三石
丹波村立 社殿十石

▲丹波國中佛閣之始

源宗吉 大尾村立 本寺 美作 懸崖大
法常寺 乃由勅額寺也 千十畑立 古殿百石

後水尾院 法皇乃由勅額寺也永九年の秋
建立之由山 佛頂國師 殿家一本く寺
素田殿立 古殿百十三石

禪法院 海家 後水尾院建立之由山 通經寂天和尚
立 古殿百世石

永澤寺 立 古殿百世石

本津寺 立 古殿百世石

穴之寺 立 古殿百世石

洞松店 曹洞 立 古殿百世石

高雲院 曹洞 立 古殿百世石

法源寺 曹洞 立 古殿百世石

西光寺 曹洞 立 古殿百世石

淨光院 曹洞 立 古殿百世石

念法院 曹洞 立 古殿百世石

大念法院 曹洞 立 古殿百世石

法華寺 曹洞 立 古殿百世石

目山院 曹洞 立 古殿百世石

▲丹波國中名所之始

美作 山立 古殿百世石

美作 山立 古殿百世石

美作 山立 古殿百世石

美作 山立 古殿百世石

美作 山立 古殿百世石

美作 山立 古殿百世石

美作 山立 古殿百世石

美作 山立 古殿百世石

〇〇乃村 才載
 天竺の檜の皮を...
 〇〇乃村 才載
 天竺の檜の皮を...
 〇〇乃村 才載
 天竺の檜の皮を...

丹波國中名物出所
 前胡 檉梗 茯苓 桑根 欬冬
 何人冬 蒜安 黃連 枳實 枳殼
 三升 茯苓 橘 松茸 天麻 獨活
 林檎 木瓜 桑 紫 山柰 麻皮
 無名 芍藥 桂枝 芍藥 芍藥
 丹波粉 胡桃 胡桃 胡桃
 大布 依仙 柏葉 世上の切草
 墨小茶壺 山柰 同皮

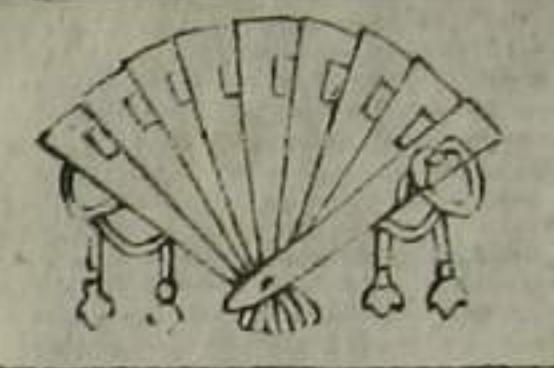
大日本山陰道 八ヶ國の目
 丹波國 丹波
 中後八段
 南小一毎字
 魚鱈素麻候より精好なり
 國産といふ中上國なり
 田敷 壹万八百八十町
 与佐 伽佐 丹波
 行野 熊野
 知りる
 拾貳万三千百八十石
 和銅六年四月丹波國の内尺敷と
 わかりて始て是迄丹波の内尺敷と
 まり候わぬなりとす



宮津御城主 百十九里ヨ
 有本御方の
 松平伯耆守宗茂
 於本 匡
 七万石
 御内室

延四位侍長
 松平伯耆守宗茂
 七万石
 御内室

延四位侍長
 松平伯耆守宗茂
 七万石
 御内室



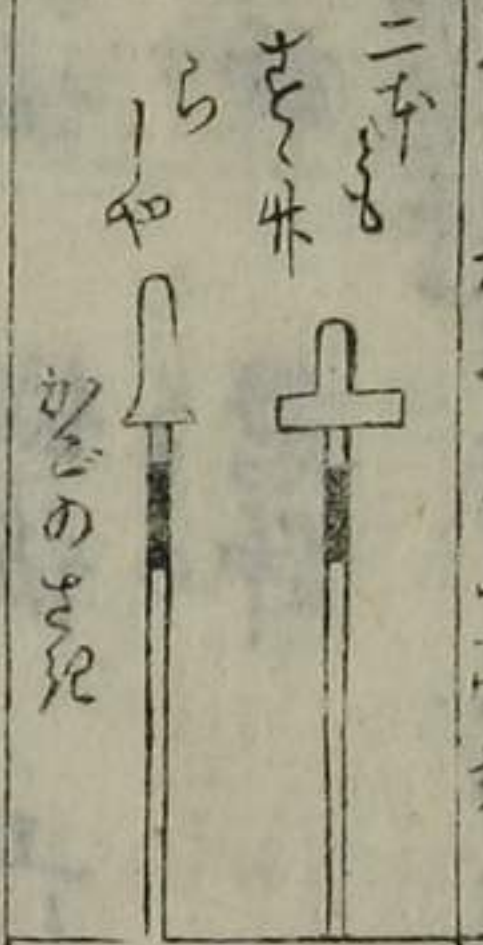
御座り
上大名小孫
中本取る
下大くが
系初新三本本



二平も
右
かごのさ兒
押地
かご
ゆんき

御
松平圖書院宗秀
御内室松平左系亮娘

押
右月郎
ゆん



二平も
さく井
ら
かごのさ兒
押
右月郎
ゆん

松平氏御家系

賜宝永二松平
本庄左馬頭宗誠長男

藤原宗正
本庄
号は源氏直上上叔代也
之曰く八世宗盛と云ふ

宗發
伯耆守

宗秀
國吉院

女子
三人
米作幼三系室
安部丹波守室
西原隠岐守室

養女
久我徳之進守室

実者方舎并
女子位并去次良室

村上三良右馬守良子

宝曆八ヨリ松平氏成之

田邊御城主
百四十ヨリ

牧野山城守節成
トキナリ
三万石ある

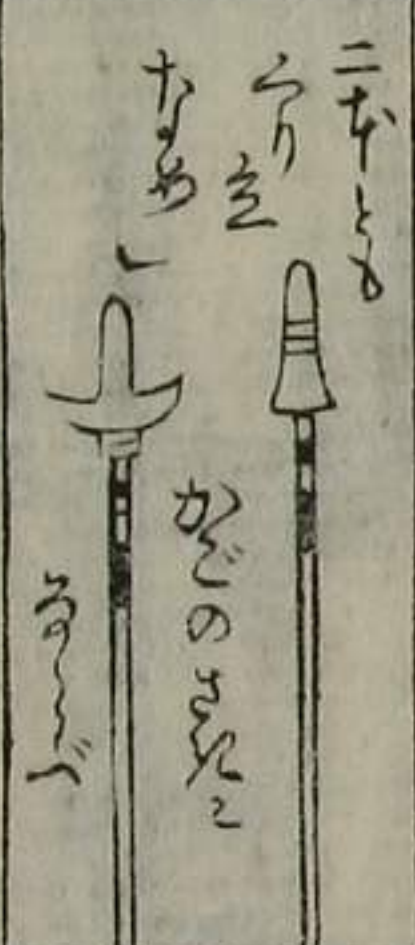
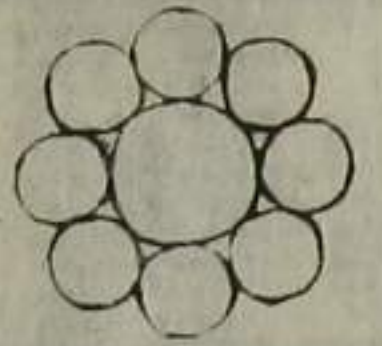
右河内守
慶本古之



御内室青山下聖吉良女

御息

上江戸を
下本以
系仙光古
大室入下



押
右月郎
ゆん

御
御内室

附

牧野氏御家系

牧野山城守定成長男

源康成

漢成

皇命高直成を以て代に
し匡く八世祖と云ふべし

節成 山城守

寛文八ヨリ牧野氏代之

峯山御領主 長谷百又十里

京極上徳女高倍

父カニナ
三万四千四百四十四石ヨ

今本丸有
本村代天左の

御内室
ほや・上カニナ内・中本横丁三丁目
しよこ・下本西横川

高倍

押三入致
月引

御京極主膳高倍

今校着那
日乃

元和八ヨリ系極氏代之
御家系八備州丸龜城城主と二系

尚園中神社之記

菰神社

与佐那之有り
一名 菰守

▲祭神 佐吉同作之 一史記

祭階 貞親十三年六月八日

長江位下 国史

竹野社

竹野郡井野村之也

▲祭神 岳湯伊勢両宮之同ト

▲里民乃 西郷神定是也 蓋有 祭史女子
之故也 ▲里乃 濱小西郷力 天下に凶

佐藤起其んと歎きこれに別社有明動し
定中此社祭事起く是より海小入成り
他邦小部之るふあはく尚園乃 利吏

去嘉とさし軍卒とそ民皇叔登躡
して意より成り五月本ハ三日此のち社友

勢多とていふ却ては飛袋のまゝとて中
小柄とていふ故小里人天下後平乃神と
極又斎宮と号とていふ西國熊野那
市場村小斎宮乃人五女子とて生代別
飛袋かあつて居上ふ立子に八歳乃
時文小苗とていふ存女と名く山中
深林乃中少少とていふ舎敷と同辰
とていふ及て長姉とていふあま生に
及て天祭とていふ或の交情乃生むる時
の刻ち大地出現して地とていふとて
つゝつゝの財ふ及て官とていふとて郷
里小とていふとていふ已上君とていふ

奈具社

丹波丹波之

奈具社 一産 宇賀の峰命 日世酒反
日世酒反 日世酒反

丹波國竹野郡奈具の神社ハ昔ノ宇
氣比女神ナリ以テ神伊勢ノ末社ナリ巨
多ノ酒及神ト名クテ酒と糖と此故
ナリナハ職小極ノ事ハ神人合座神
ト号クテ酒と糖と極ノ事ハ神人合座神
ナリナハ職小極ノ事ハ神人合座神

宇賀社

宇賀郡川東之

奈具社

一産 豐受之社 岳法園等之

世紀之云伯耆郡奈具古伯耆種武天皇此
社皇天皇也 即位廿一年丁巳冬十月倭姫命
養小覺一多りく宮志社若一不不き
はまの酒及神ト名クテ酒と糖と此故
ナリナハ職小極ノ事ハ神人合座神
ト号クテ酒と糖と極ノ事ハ神人合座神

坐國へいといふ海受一ありとていふ
ふ乃て天皇廿二年戊午年秋七月七日
社乃直社と勢別及て山田社系に
たも社在乃社地とていふ神伊勢國社
社乃社小とていふとていふ

浦添社

竹登郡浦添河の東細野村之

倭之細野社と号凡倭浦添古所分天
社とていふ浦添河の西國此人神根之命
乃倭皇祖皇とていふ事遠葉小入三百
四十八年へいといふ倭和天皇此直宇天皇二年
おゆるとていふ

宮内社

宇賀之 奈具 大己貴神

少貴名命之後治命院永承元年九月
院宮小とていふ社建之

同日 佛閣之社

丹波國竹野郡

九世戸文殊

別当 海岸寺 智恩寺

法定より東現一の圖は壇金乃等像
なりと云り此の堂は赤白の毎月十六日乃
法定より燈を捧ぐと云り此は丑宮乃
方此仲より法灯出現して堂北山の法
うらまへ九月乃十六日此天燈と
そらり一灯ふと云り又伊勢此法燈とて一
燈此の堂にあり此燈乃おとてあり

成相親寺

別当 徳吉山成相寺

聖徳太子此法親本堂此親堂 西國
世三所乃此法親本堂此八表同之南々
不動院と云 徳親親と云 古伝云此石

海光寺

曹州 海光寺 弘法大師の作

喜福院

日 喜福院 日 此石

明月庵

日 明月庵 日 此石

國分寺

由良立本堂此堂此堂此堂

同日

名不之記

お月山

お月山と云り

くろく山

くろく山 移る乃倉山と云り

是乃山

是乃山 此乃山と云り

乃海

乃海 乃海と云り

乃木

乃木 乃木と云り

乃木

乃木 乃木と云り

乃木

乃木 乃木と云り

乃木

乃木 乃木と云り

乃木

乃木 乃木と云り

乃木

乃木 乃木と云り

乃木

乃木 乃木と云り

乃木

乃木 乃木と云り

乃木

乃木 乃木と云り

乃木

乃木 乃木と云り

乃木

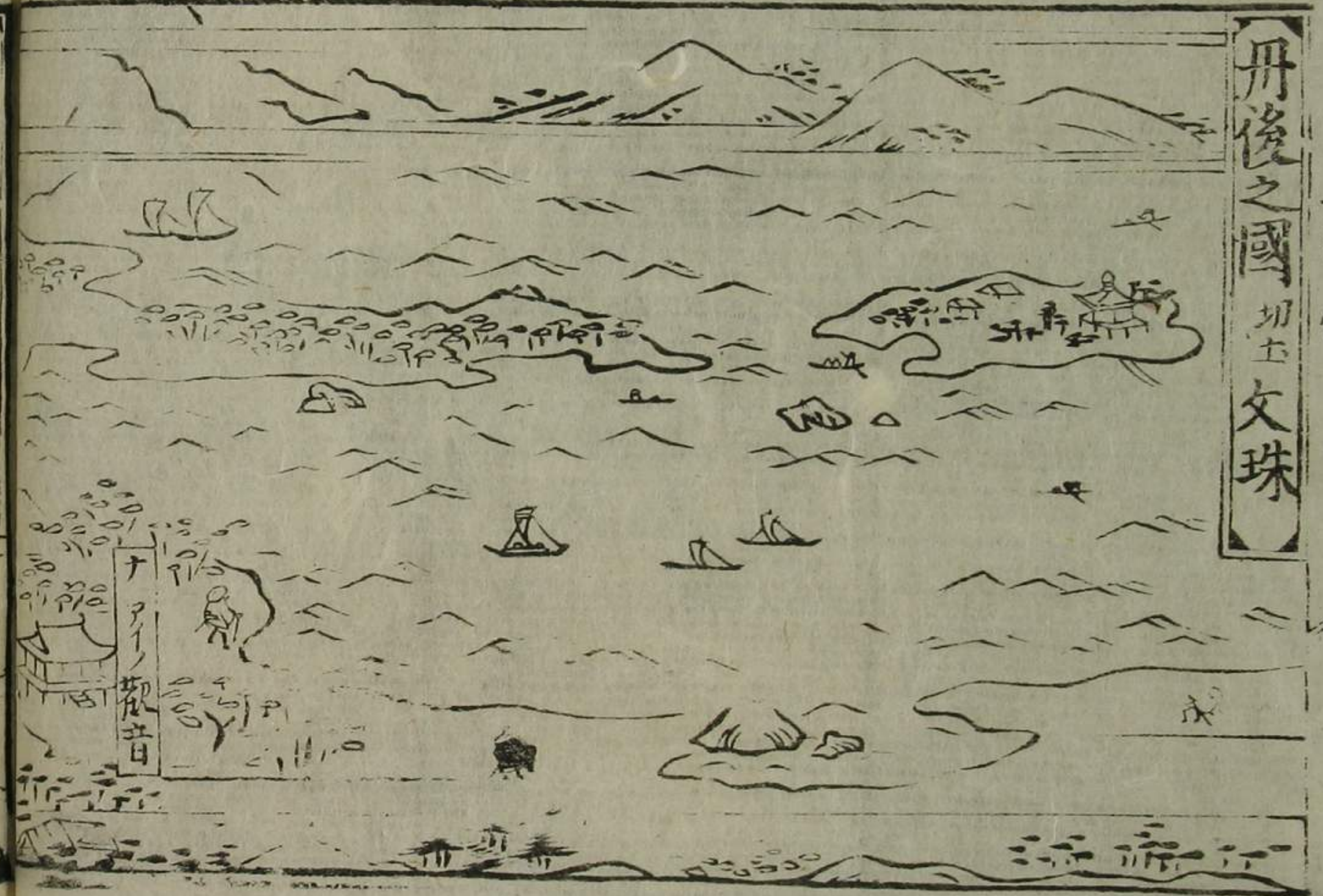
乃木 乃木と云り

乃木

乃木 乃木と云り



但馬之國 出石大明神



丹後之國 切土文珠

丹後之國 切土文珠



仙石道之助久利

又万八千石

仙石左兵衛 岩田静三

御内室 上中一のく日下一のく



御中一 中一のく二丁

宗正幸町通夷川上正平



仙石氏御家系

源秀久

久利 道之助

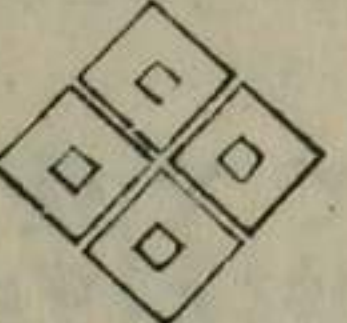
宝永三ヨリ 仙石氏承之

豊岡御領主

百又十三リ

京極修理高行

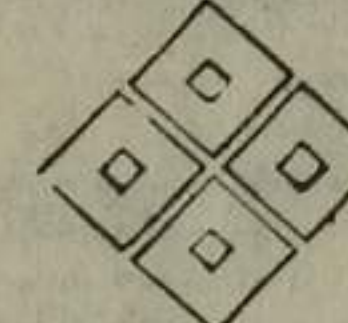
坂本跡三左の 徳子左儀



御内室 本多源正少弼娘

御内室 上かじりてんじんあ 下子門御色彩河

御内室 推考 押考



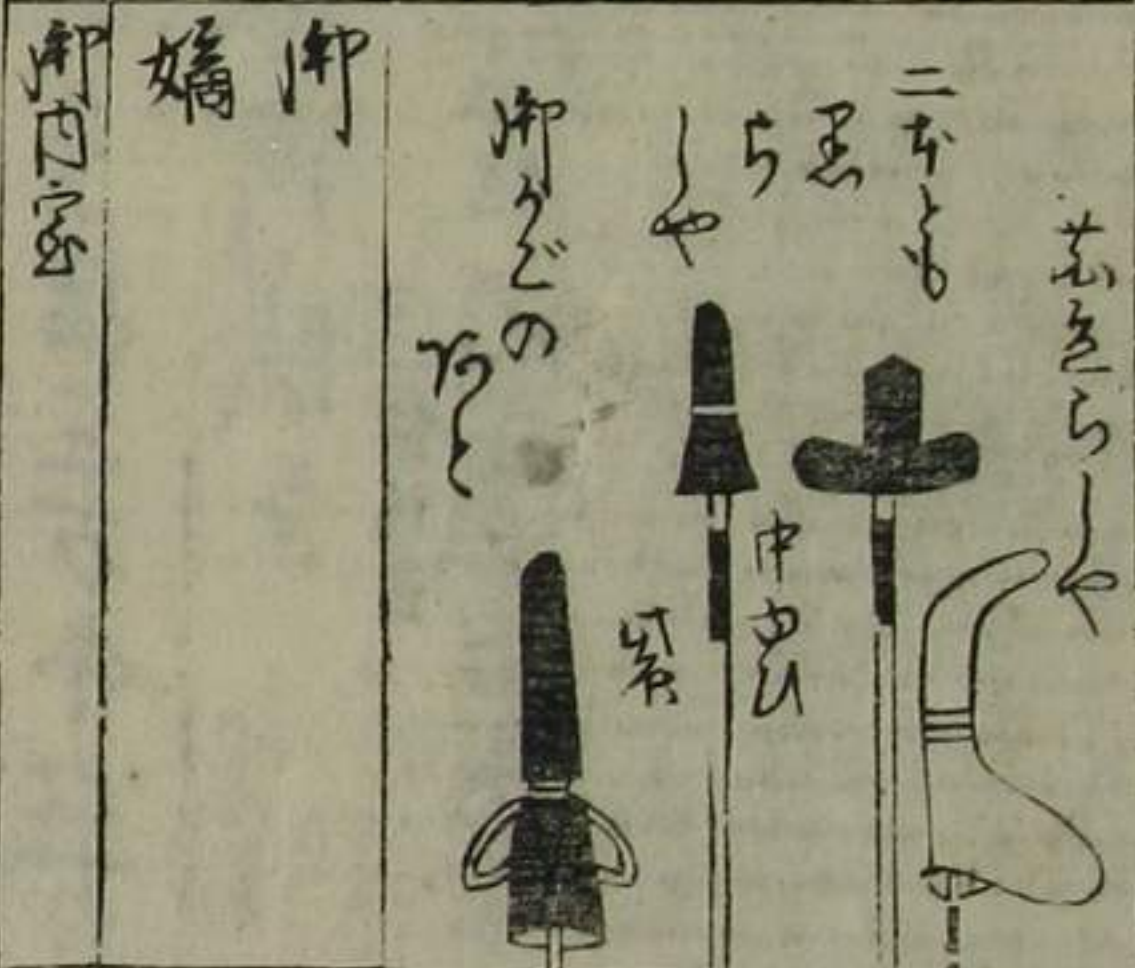
系極氏御家系

系極母 高吉二男

源高知

高行 修理

寛文八ヨリ 系極氏承之



金紋所
松平氏
押添
紋目
白

松平氏河家系

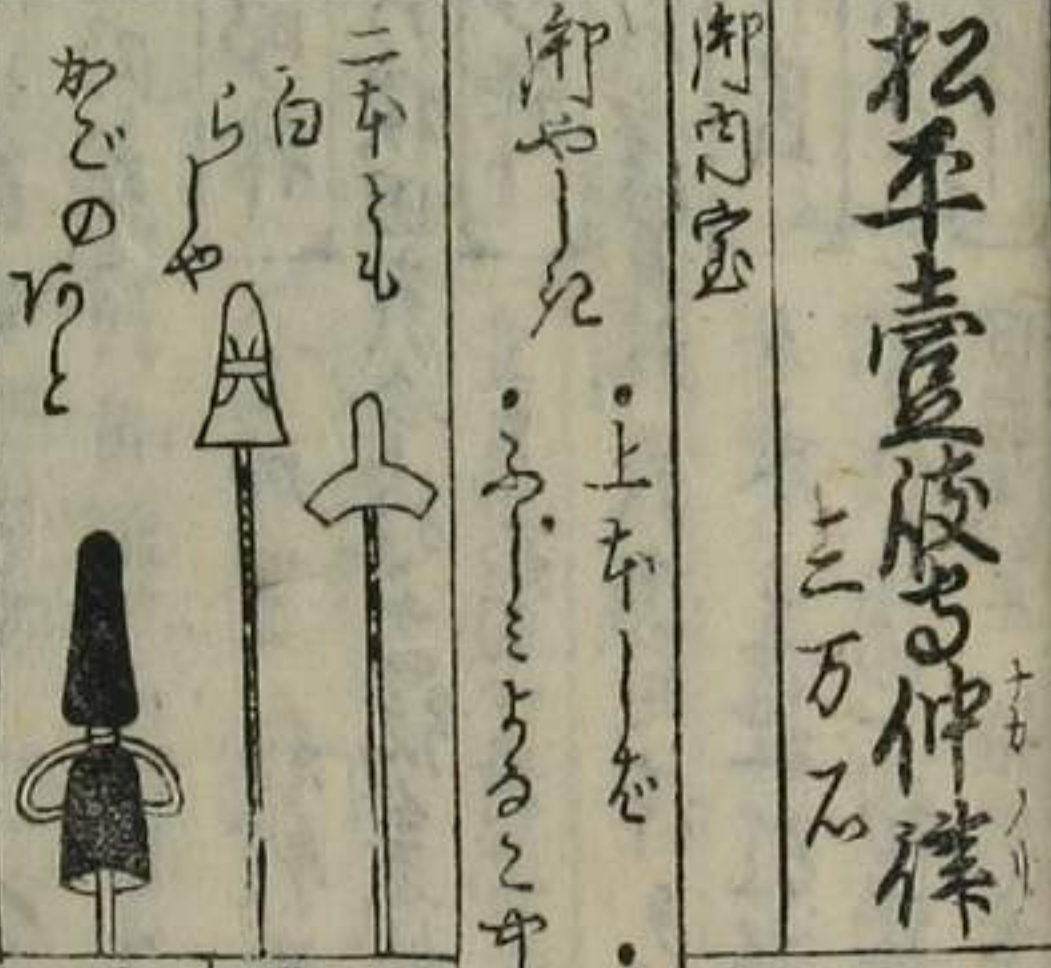
清和原氏
東照大権祝所殊被准卿子賜松平稱号備前
實地田守相輝政二男
源忠繼 友長の督
長四位左衛門
母良正院殿

齊月訓田嶋寺

寛永九ヨリ松平氏仍之

鳥取新田河領主

百八十里



松平壹俊
三万石
過境
山田布方ら
押添
紋目
白

河家系ハ鳥取河城主と一系

新田河領主

百八十里



松平長門守定保
三万石
永系
押添
紋目
白

河内
河内
河内

河内
河内
河内



御座り丸

上丁白丸洲十町下
下本西小島本川

御座り丸

附

御座り丸

所家系ハ本と同一

高田神社之記

宇信社

法興社

祭神 武内宿禰也

社名帳云ク風土記云仁徳帝ノ後又十五
年去三月戊辰二百六十餘歲ノ時高
田小田下白丸等ノ地合ニ於テ双ノ殿ノ
之れリ由隠而ヤ不知ト云テ地ハ別ニ
上件ノ年月日時ト以テ去説乃始トス

和名理明社

八上郡ニ立 社凡廿五石

高田神社

高田神社ノ後田表令社ニ改メ系乃天皇御宇ニ立
高田郡田中村ニ立 社凡廿十石

八幡宮

高田神社ノ後外宮内社トシテキリキリ
寺取ニ立 社凡五十五石

高田神社

高田神社ノ後高田郡高田村ニ立 社凡廿五石
日而ニ立 社凡廿五石

松清神社

松清神社ニ立 社凡十五石

愛宕神社

湯下ニ立 山城國愛宕郡高田村
去説ニ立 毎月十七日冬至競馬

東照権現

高田國傳圖之記

龍峯寺

龍峯寺ニ立 寺凡二百石

國府一休寺

後光の院也 寺凡元徳師用基号 停光山
國府ニ立 計前一體和尙居
住乃地ニト云リ和尙乃新像也 寺凡廿石

洞源院

洞源院 曹洞
儀所村 寺凡廿石

徳源寺

徳源寺 日 廿八石

明泉院

明泉院 日 廿八石

不動院

不動院 日 十五石

津法寺

津法寺 津云
推古天皇十三年

建立聖徳太子御遺立の古より

一心福寺

一心福寺 一向宗 田川

神宮寺

神宮寺 寺凡

高田國中名所之記

高田國中名所之記 高田國中名所之記

因幡山

因幡山 高田國中名所之記

高田國中名所之記

高田國中名所之記

けあらみの國此のあを山と傳ふと云はれ
 其の國名は但國の時乃あそと云はれ
 あん又去有法中此百人一有種は國名
 大いに任せられ大納言の平一國
 嘗と建立五人たり中納言の平一
 難は此の國中納言の平一と云はれ
 山とて乃あんと云はれ此の松尾村
 乙女と云はれあひいと云はれ毎下
 ぶらうや系師のつあを此の松尾
 村の二人古傳と云はれあひいと云はれ
 此の平の名のまがひと云はれ
 此のこれと可る又此國中も此を
 里といふ建保の百を國情と云はれ
 字とくけり此の松尾村の松尾と云はれ
 此の松尾村の松尾と云はれ
 中納言の平一の國の任とあはれ
 三角山 名集と云はれ
 夫の先をみと此の松尾村の松尾と云はれ
 いあを川

國情國中名物出

幅 絹本 本地 本地山 船台干

海嘉起 海中山 細川松
 家奥掘系 引田鼻紙
 右國情國分上

大日本山陰道 八ヶ國之内

伯耆國 依良 上愛六班 南心二日才

山陰くまの月一入穀夜帛吐二橋橋
 申之國なり 田敷 八千十六町
 河村 久米 八懐 汗入
 日野 會見

知りて 拾三万千六百四十九石

伯耆といふ摩乳是摩乳の縮田
 八段の大地の事と云はれ此の
 のがれて山中へ入財不丹返く
 眼乃つそく母来ませと云はれ
 母来此國と号は後之つそく
 伯耆自と云はれ

朱子御城主 信濃二百十里

由 因州鳥取御城主

松平城之助 持分

▲當國中神社之部

倭文大明神 川村殿 社殿五十二

冬祭 卜照帳神 大日靈命女一宮記
猿彦年記未考 神鏡云 和滿院

法人世世人乃たまけとありん者といふ事
小形ひりしあびりしん者といふ事
神カとまひまて月れりの神と
甘んと信ふ世人の國は産つやさん
とわりありんあうれとてそむけ
うーあんと

大山大智明神 志立社殿云ふ天台宗
祭神 大日靈命 祭礼四月廿四日 古之

信濃國大山大智明神 稱徳天皇此と
神鏡のついで同く勅し社と建山下
乃砂子夕べふ山のかりに替ふと
あはるふ松あり枝あり神あり

神社考 此神乃木原探集抄あり
あはる砂ハ且まの山上 界際 松枝ハ
しんく神ありあびくまの政依神の
おとあひありあはるの代ありと

八幡大神 八幡殿 社殿三十二

富土権現 倉元 日 十五石

富土権現 成徳 日 三十二

▲同 佛閣之部

神宮寺 河村殿 立 古殿四十二

観音寺 日野 日 十五石

大久寺

此寺ハ云々和尙乃信在之和尙下野國
於須聖ありて殺生を引等し國入
の憂へのぞりやあひて後當ちんあ
近れありと之をうけん血をうけけ
家あつたて今にけち此宝物とてあり

青松院 久保 立 古殿廿石

▲同 名所

湯園 古く今名所なりと名所ふん
より換足さべしといひり名所ありとや

▲同 名物出所

織

熊鷹 志皮茸 志皮茸 志皮茸
▲右伯耆國分の上

麩汁 志皮茸

大日本山陰道

八ヶ國之内

出雲國

雲州

上管十郡
東西二百五

樹本丸籠ねまゝのり野菜七産
後農器多績布多し大上國之

田穀九子九十六町

意字

能候

信根

秋原

楮籠

出雲

神戶

飯石

仁多

大系

武指万三千二百七十七石

▲尚國と出雲と名づくる所以八束水

尾津野今此八雲より出雲と沼に

中せし更不出雲といふ風七記

八束水尾津野今此八雲より出雲と沼に

松江御城主

二百廿三里



松平出羽守存貴

格八万六千石

御内室松平肥後守娘

大指茂右衛門
三右衛門
乙卯九月
朔日丹波
柳田守吉

- 上赤坂所門の内・中青山今井
- 下加賀下六丁目・下赤坂所門外
- 下所門大さき村
- 糸西、さきいん二系上ル丁
- 大坂とさきり白子丁

悪長草掛之内全奴

中やいせふ

二子丸
柄芝えまき



押
思きね
白

御内室

松平氏御家系

越前中納言秀康卿四男

源直政

出羽守
長四位少輔

長官直政
長官直政
長官直政

齊貴

出羽守

長官直政

長官直政

寛永十五方松平氏以之

廣瀬卿領主 江戸分二百廿二里

松平佐渡守直寛

ナラヒロ 二万石

片山跡方方
神山唐之助
鈴木左馬介

御内室内友後後上右方叔母

押くろま
かど
かど

御也 上四若御門外・中目 伴
き 下大くは 大坂系所

かど
かど
かど

黒長草 丸形 内舎御紋

かど
かど
かど

御 松平大助

神山乳母

御内室松平中勢大淵姫

押

怒

松平氏卿家系

長四位少将源直政

二男

源近榮

上野外

長子源近盛と之叔代也
之代は源近盛と之代也

直寛

佐後守

莊次郎

大助

晴五郎

繁三良
菅谷氏
山名親貞室

益之丞

女子

龜之助

寛文年中松平氏以之

母里卿領主 江戸分二百廿三

松平志广守直貞

ナラヒキ 幸万石

今村庄左
山内幸左

御内室松平大和守若方叔母

御中凡 青山久保町・麻布ひろ

御内室 黒長草内 金田紋

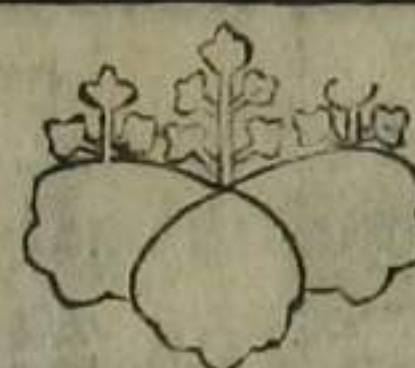
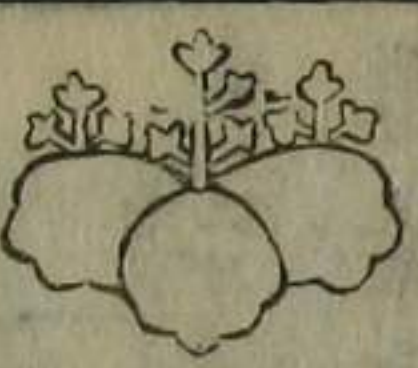
押
かど
かど

御内室 黒長草内 金田紋

かど
かど

御内室

附



土原天神

出雲郡土原村小寺

▲祭神

菅原 田史乃有 天孫日命

十四世乃孫と野見宿禰とて出雲國に
居たり高仁希乃頃うに直とて人徳成
まり殉死乃天葬ふふ希天不喜と云降姓
と傳りて蓋し菅原の云降氏乃高孫なり
故ふは是れ小比村と親うとて

最古の神

松江城中三之祭神 瑞初大の神

信小高社の神ハ天永年中に從宣由由テ
信列松中ハ所小梅り瑞初

八幡宮

夫登村立 社殿廿石

東照宮

夫登村立 社殿 社傳長云

▲當國中佛閣

月照寺

松江外中系三之 古殿廿石

誓願寺

松江古町三之

經國寺

松木山三之 古所古ハ武二海傍

亦受業生地也 亦受業自年亦之石
小寺付 經國寺古所古ハ武二海傍

長國寺

村築村三之 古所古ハ武二海傍

天然寺

松山三之

長福寺

大永三之

大林庵

松江院 松系 野見村立

清水寺

松江院 松系 野見村立

▲出雲國中各所之記

出雲の山

系四 志しまろし かく伝り

石前乃雲山

系四 天とより

高峯乃雲山

高峯乃雲山 松江院 松系 野見村立

河原乃雲山

系四 河原乃雲山 松江院 松系 野見村立

八雲乃雲山

八雲乃雲山 松江院 松系 野見村立

浦森

系四 浦森 松江院 松系 野見村立

中乃雲山

系四 中乃雲山 松江院 松系 野見村立

さく乃雲山

系四 さく乃雲山 松江院 松系 野見村立

無双乃雲山

系四 無双乃雲山 松江院 松系 野見村立

井築

系四 井築 松江院 松系 野見村立

日乃雲山

系四 日乃雲山 松江院 松系 野見村立

火乃雲山

系四 火乃雲山 松江院 松系 野見村立

たぐ乃雲山

系四 たぐ乃雲山 松江院 松系 野見村立

河乃雲山

系四 河乃雲山 松江院 松系 野見村立

井乃雲山

系四 井乃雲山 松江院 松系 野見村立

井乃雲山

系四 井乃雲山 松江院 松系 野見村立

い乃川 熊川と云 巨邦

林の初方先の程を記す、此川上にはある八ヶ垣

吉野川 実山 名所あり、

榎木山 榎木山 名所あり、

塩治 村と云ふに塩治判及石塩あり

▲西園陸海

●松野大坂 古園懐國名取と陸海

●同 出雲國松江と陸海

大坂 尾の傍、三里 此所舟あても舟も日三つ

尾の傍 舟の交、二里 舟の交、五里

長原 舟の交、五里 此所舟あても舟も日三つ

此所舟あても舟も日三つ

三月月、二里 三月月、二里

三月月、二里 三月月、二里

三月月、二里 三月月、二里

三月月、二里 三月月、二里

三月月、二里 三月月、二里

三月月、二里 三月月、二里

三月月、二里 三月月、二里

三月月、二里 三月月、二里

三月月、二里 三月月、二里

三月月、二里 三月月、二里

三月月、二里 三月月、二里

▲出雲國中名物出所

鉄 鐵、二里

絹 絹、二里

白 白、二里

十六 十六、二里

松江 松江、二里

八 八、二里

二 二、二里

二 二、二里

二 二、二里

二 二、二里

二 二、二里

二 二、二里

二 二、二里

二 二、二里

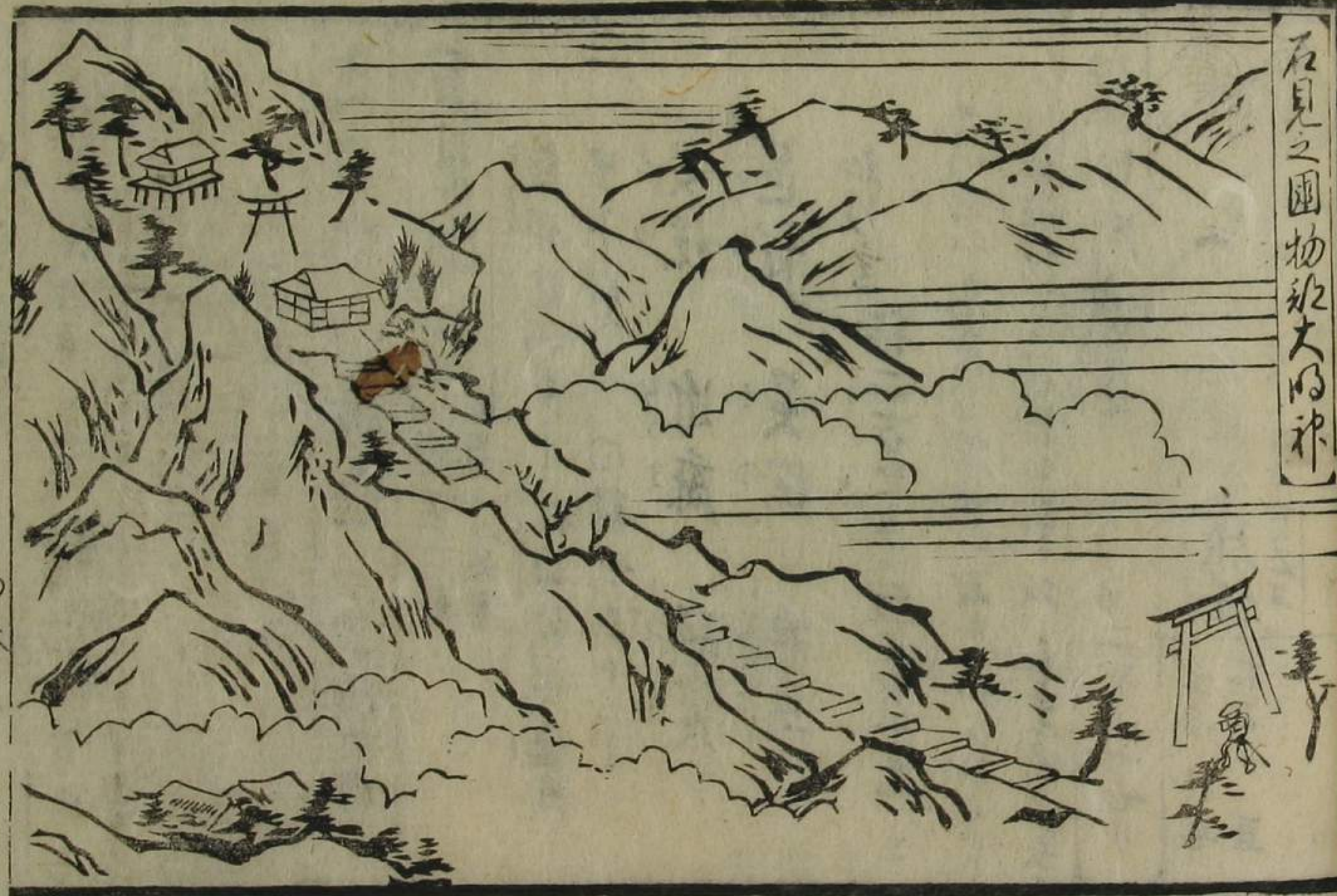
二 二、二里

二 二、二里

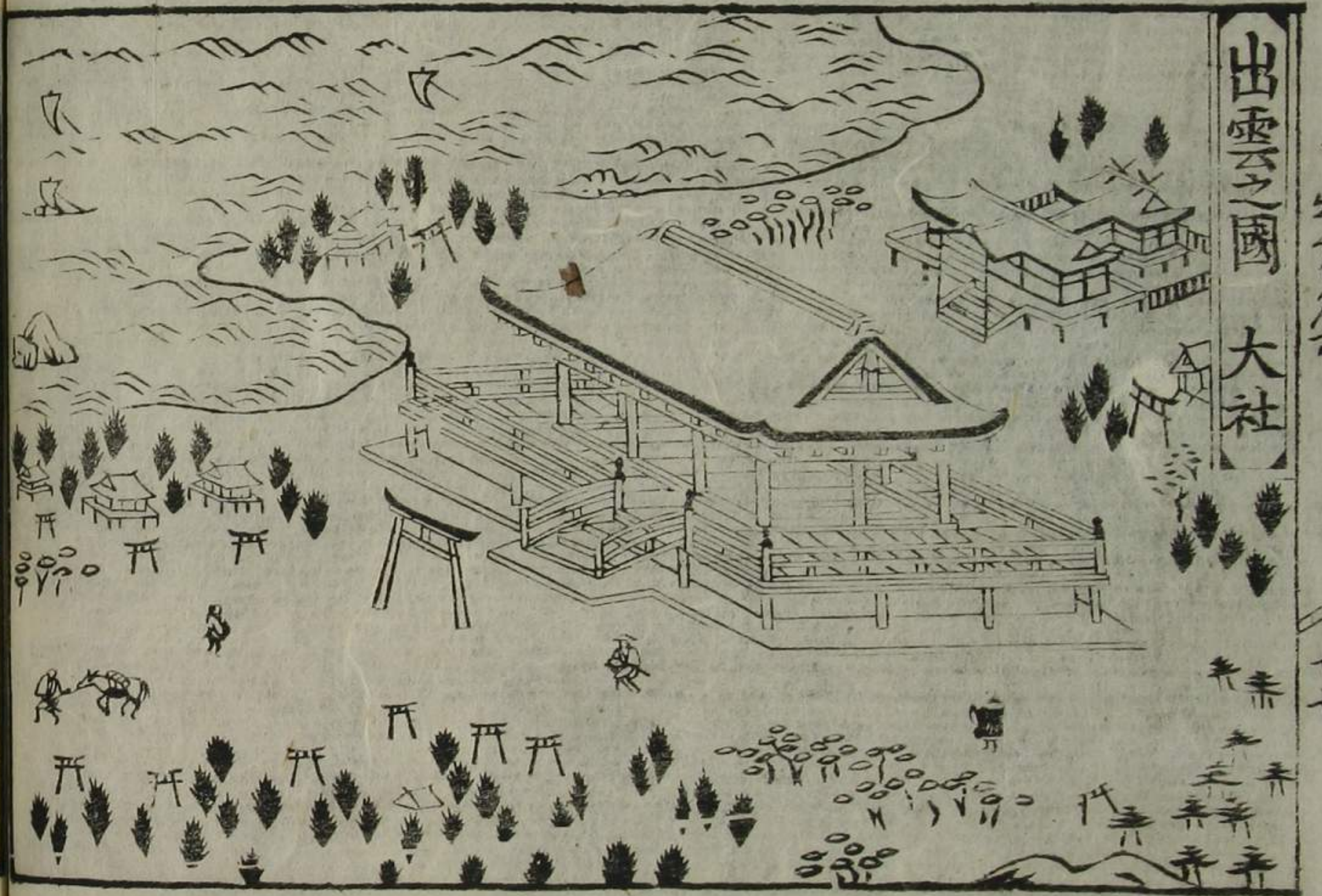
二 二、二里

二 二、二里

二 二、二里



石見之國物部大内神



出雲之國 大社

出雲之國 大社 十七

野白紙 野白より二布 若和布 若和布
 瓜のこ村といふ所より あり

▲右出雲國分の上
 大日本山陰道 八ヶ國の内

石見國 石州 中後六郡 南廿二日市

藤布 陸利多 稅貢化國之信凡
 中下國之 田數七ふ十二丁
 安濃 近麻 那賀
 邑智 吳濃 麻呂
 知りき 括二万七ふ三百七十七

▲け國小高角山岩修山岩素仁山ふて
 候他山岩候陸の國之故石見國ト号

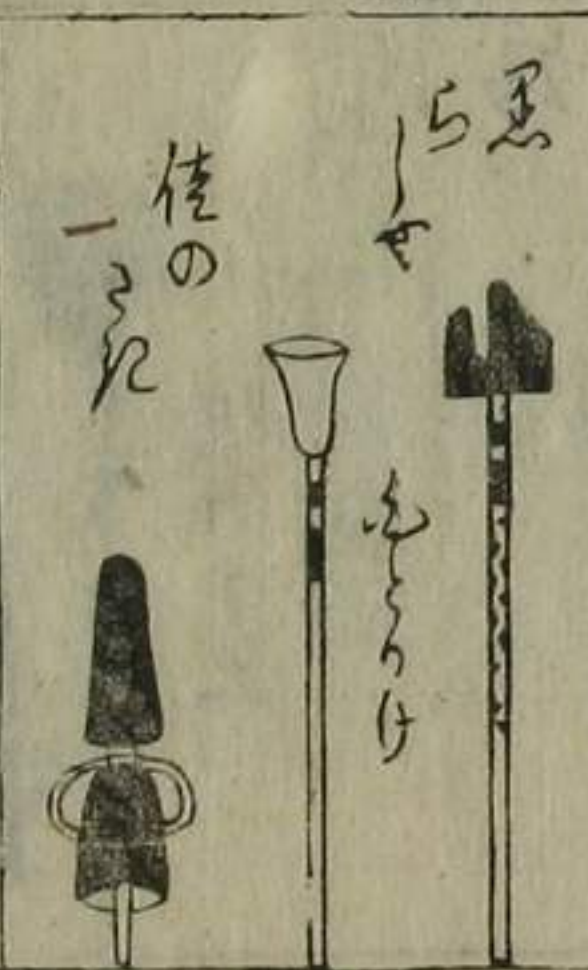
淡田州城主 二百四十七リ



松平氏御防者 康任
 長四位信長 六百四十二リ
 御内室

松平 直 岩田 乳母

- ・上西所丸下 中本棟丁又丁
- ・下所川戸こ村 下下所丸
- ・系録 東のこころいん西入丁
- ・大板 二丁目



押取 くら
 白 くら
 白 くら
 白 くら

御内室 松平 弥三郎

井上 八十二
 本村 儀曲

松平氏御家系

六条判官實業十四男松井冠者能義十八代孫
 松平左近將監忠次依 台命家名実名改
 御一字跡依

源康親 松平 康任 用防者
 周防者 長方由直信立と叔代也
 人匡くハ武家と云ふ事一

康任 用防者 養女 花内出雲守宮
 女二十 三人 藤江侍三助室
 同於下宮宮 小出依徳宮

康壽 大出御監 女二十 三人 彌井真之助室
 二人 小出依徳宮 弥三郎

十三 下

明和六ヨリ松平氏所之

津和野所領主 二百四十七リ

龜井能登吉茲方 多羽丹波 牧 四也



所内宝

所内宝 所やーと
・上外さくく内・下麻布ふんふ坂
・下子川八せんあ・大坂 大目ざり
二平しも白くろ毛



佐のさね

押豆 せん白

附 せん白

御 婿 御内宝

龜井氏旧家系

清和源氏

源茲矩

龜井 武蔵守 是より内所領主と被代也 之より武蔵守と云ふ

茲方 徳重吉

之和三月 龜井氏所之

△内國神社之款

物之神社 安徳五三

祭神一座 宇摩志同社令

二キハヤヒ 俊速目令社子 一宮元

△時長是者と云ふは人をつらに三人を
小言て云ふ者なり天乃神の子天乃雲龍
年々天より降りてぬ号て俊速目令
と云これ吾妹三炊屋媛と云ふと云見
あり名を可云ふ命と云 日本紀
△正位 貞和十七年十月己未云云信上 国史
神滝 俊備後

霽麗神社 雨原殿三三

近弊娘神社 社史三三

法人の心持くは亦も又新てうらうらと云ふ

八幡宮

俣田三

一月 佛國之部

不動滝

折村本宮不動明王坐化

大勝寺

安徳郡

梅月院

後傍三

法意寺

古川百五
は和聖伏元院座宇園奉日事上人

一月 名所之部

いも山

指原三

人丸

婦山其名の小蓋を流する智をて婦の傍にありん

わたり山

石見

大和の伝は其の山にありて人丸

うら山

カノ

宮本引神の山にありて人丸

うら山

赤松

赤松の山にありて人丸

八か山

万二

赤松の山にありて人丸

ひま山

赤松

赤松の山にありて人丸

日く山

赤松

赤松の山にありて人丸

いも山

赤松

赤松の山にありて人丸

いも山

赤松

赤松の山にありて人丸

いも山

赤松

赤松の山にありて人丸

いも山

いも山は古く松山といふなり

いも山

いも山は古く松山といふなり

いも山

いも山は古く松山といふなり

いも山

いも山は古く松山といふなり

いも山

いも山は古く松山といふなり

いも山

いも山は古く松山といふなり

いも山

いも山は古く松山といふなり

いも山

いも山は古く松山といふなり

いも山

いも山は古く松山といふなり

いも山

いも山は古く松山といふなり

いも山

いも山は古く松山といふなり

いも山

いも山は古く松山といふなり

いも山

いも山は古く松山といふなり

いも山

いも山は古く松山といふなり

いも山

いも山は古く松山といふなり

いも山

いも山は古く松山といふなり

いも山

いも山は古く松山といふなり

いも山

いも山は古く松山といふなり

いも山

いも山は古く松山といふなり

いも山

いも山は古く松山といふなり

安藝國廣島より高國渡り
静るる法唯長門國記

石見國中尾物出所

石見國 石見 石見 石見 石見 石見
石見國 石見 石見 石見 石見 石見

石見國 石見 石見 石見 石見 石見

大日本山陰道 八箇國より

石見國

石見國 石見 石見 石見 石見 石見

石見國 石見 石見 石見 石見 石見

石見國 石見 石見 石見 石見 石見

石見國 石見 石見 石見 石見 石見

石見國 石見 石見 石見 石見 石見

石見國 石見 石見 石見 石見 石見

石見國 石見 石見 石見 石見 石見

石見國 石見 石見 石見 石見 石見

石見國 石見 石見 石見 石見 石見

石見國 石見 石見 石見 石見 石見

石見國 石見 石見 石見 石見 石見

石見國 石見 石見 石見 石見 石見

石見國 石見 石見 石見 石見 石見

石見國 石見 石見 石見 石見 石見

石見國 石見 石見 石見 石見 石見

石見國 石見 石見 石見 石見 石見

石見國 石見 石見 石見 石見 石見

石見國 石見 石見 石見 石見 石見

石見國 石見 石見 石見 石見 石見

石見國 石見 石見 石見 石見 石見

石見國 石見 石見 石見 石見 石見

石見國 石見 石見 石見 石見 石見

持原系

田叔二万五千百世六丁

明石 賀吉 印南 傍磨

揖保 後分爲二款 赤煙 佐用

完栗 神傳 賀茂 今分爲二款 稱賀東雲西

多可 三本 幸作 大栗

知り 五拾式百子二百石

旧子絶云
計開と云昔系以天守兵二年必
掃書楯日左郎始と云て全伝と
守一日本武志と云生撰ナ乃々也
ていあて出干此云々

娘路御城主 百石方 百石十iriヨ



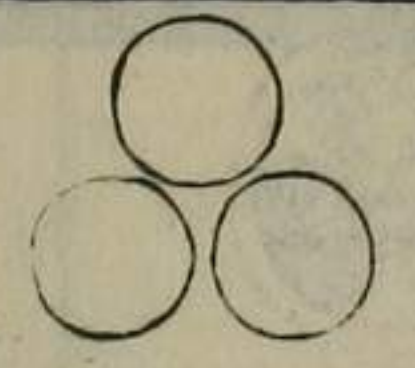
酒井雅樂頭忠實

長四位少輔 格入コ石

御内室

御意
上 大い向方角・中かきう丁

下さうも・大坂田辺やわー
系わり内庭二系上



二本

信の

信の

押 ちや 小めん

押 ちや 小めん

御 酒井内忠實

御内室 御内室

何合其之册 傍丹丹以

押 何の

信の

押 何の

酒井氏御家系

源正親

忠實 御内室

忠親 御内室

忠學 御内室

忠優 御内室

女子 二人 酒井大和守室

忠親 御内室

忠學 御内室

忠優 御内室

松平信俊の御子

景之六直

實浦

舟越強河守系有子

是乃酒井氏之御家系也

實大駒丸
 酒井主殿 吉良子
 養女 内儀大和守室
 康直
 二宅依松平吉良子

明石卿城主 百四十一リヨ

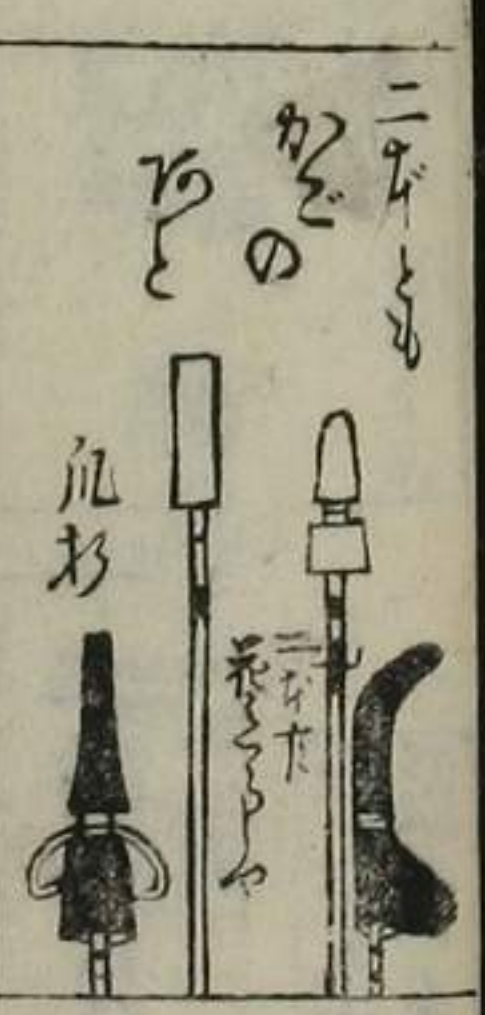


松平左衛門督直韶
 六百石
 同官 伴實
 尾崎六郎

御内室 松平大和守姫
 市也・上半松平門外・中四郎大木戸
 吉・下芝吉吉吉・大坂中の一



御 松平周丸
 御内室
 齊友森場
 山崎勝友の



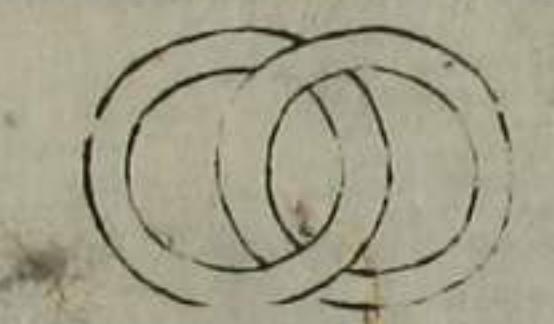
松平氏卿家系

源直良
 御内室 松平中納言秀康之七男
 但三吉
 長四位右大臣
 長四位右大臣
 長四位右大臣

直韶
 友吉副督
 周丸
 室松平家系云卿廿五男

天和二ヨリ 松平氏依之

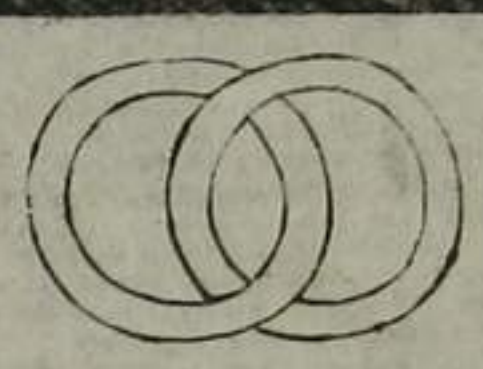
龍野卿城主 百六十里



脇坂中務大輔安重
 四百石
 刑 女
 刑 ア

御内室
 御内室
 上芝日一丁目海心・中つさくら
 下青山宿・大坂中此崎宿

龍野卿城主 百六十里



二本とも 一人の かたの さだ	押 婿 安坦	押 内室	二下 てんの かたの さだ	押 駕 二下 てんの かたの さだ	押 くろ め引
かたの さだ	安坦 侯治也	女子 秋月流前守宮 二人	安坦 侯治也	安坦 侯治也	安坦 侯治也

服板氏御家系

侯州頂本之城主
藤原安治

安董 中勢大補
某 甚内
某 直吉
某 幹之丞
某 祥二郎

赤坂所城主

森勝徳忠徳

押 内室	押 内室	押 内室	押 内室	押 内室	押 内室
上夏林の南子・下ひろと 大坂中の一まよとやむ	上夏林の南子・下ひろと 大坂中の一まよとやむ	上夏林の南子・下ひろと 大坂中の一まよとやむ	上夏林の南子・下ひろと 大坂中の一まよとやむ	上夏林の南子・下ひろと 大坂中の一まよとやむ	上夏林の南子・下ひろと 大坂中の一まよとやむ

森氏御家系

長和原氏
八幡若御家六男森六郎隆十郎代
森執後吉可行四男
源可成 三左衛門尉
徳州金山城主

忠徳

安永三才家氏御代

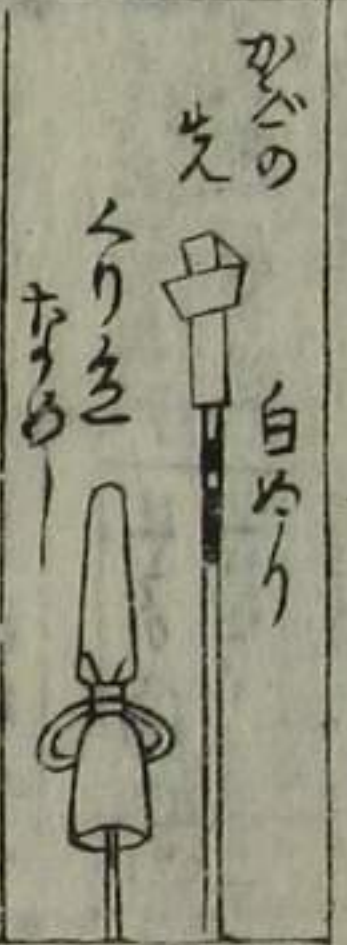
十三

一柳對馬守素周

三戸桂氏良
西本山前六



御中しと
上りて下りてま小治
下白り



押 己人
かん白
うごこん
おん引

御内室
御
一柳後三郎素延

一柳氏御家系

越智直盛

一柳
監物
皇代の
皇代の
皇代の

未周

未延 後三郎

寛文中ヨリ一柳氏御家

内國神社之記

伊和社

完栗那之
祭神

大己貴命 御意
一宮元 又為社皇之記也
今峯相記記云
一宮伊和社神の中畧 素意
為皇弟一の皇子大己貴命皇人首一神初

皇孫三韓を征討の日高社に於て御軍伏誅
乃御意 皇陣より多し之を不費誅
皇孫の天皇は治世廿八年伊和社に於て
て云皇孫は此小宮より 皇孫は代り出矣
皇孫の御意は平素の中は双龍を御意に
ひくく御意は恒所 上帝小宮より 皇孫は
神戸と高り御意 高國氏一宮と云て一宮
と授らるると云

廣峯社

神皇正統記 廣峯山
社於七十在

因入中社也
改原雜事記云 聖代一宮
天智六年三月十八日 言攝云 故皇より 廣列

小宮より 天王小宮より
皇孫の御意は 皇孫の御意は 皇孫の御意は

三年壬午天智四年乃
廣峯大途

標社 并 御意
皇孫の御意は 皇孫の御意は 皇孫の御意は

▲地坐社
▲冠者殿
▲天祖文社
▲九龍神社

大己貴命
額云 軍八頭一宮位社伊

神皇正統記

和久伯神 高社の大神持命と云々

皇乃派世廿六年甲申六月十日高社

一國皆懐と云々の天年

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇

崇徳天皇 崇徳天皇



清和天皇二十二年 神社 三十九

聖徳太子系船 千手観音の地河院
正徳元年 聖徳太子八歳 建立

遊徳寺 大友 船山
西園寺礼佛并六番 本寺 十手観音

法心寺 天台 空海上人建立 号乃乃言像
松原 三

八心寺 真言 松原 三
中島 三 又三

五峯山 真言 榊原 三 或傳書
松山 三

酒見寺 真言 室津 三

光の寺 真言 三本 三

見性寺 真言 甲村
小松 又三本 又三本

瑞徳寺 真言 三本 三

石峰寺 山伏 三本 三

法光寺 山伏 三本 三

大貴寺 山伏 三本 三

法界寺 山伏 三本 三

阿光寺 山伏 三本 三

大光寺 山伏 三本 三

三本 三

三本 三

三本 三

三本 三

三本 三

三本 三

播磨守國中名所

馬山

馬山 松平 三

舟山

舟山 舟山 三

三山

三山 三山 三

三山

三山 三山 三

三山

三山 三山 三

三山

三山 三山 三

三山

三山 三山 三

三山

三山 三山 三

三山

三山 三山 三

三山

三山 三山 三

三山

三山 三山 三

三山

三山 三山 三

三宮の海の世は橋坂の故に波小おれりとも
あつたの里 せうせうあつたの故に波小おれりとも
と徳やハ揚文波屋のしつ西の海に

あつたの海 市島海 川
あつたの市 市島海 川

あつたの市 市島海 川
あつたの市 市島海 川

あつたの市 市島海 川
あつたの市 市島海 川

あつたの市 市島海 川
あつたの市 市島海 川

あつたの市 市島海 川
あつたの市 市島海 川

あつたの市 市島海 川
あつたの市 市島海 川

あつたの市 市島海 川
あつたの市 市島海 川

あつたの市 市島海 川
あつたの市 市島海 川

あつたの市 市島海 川
あつたの市 市島海 川

あつたの市 市島海 川
あつたの市 市島海 川

あつたの市 市島海 川
あつたの市 市島海 川

あつたの市 市島海 川
あつたの市 市島海 川

あつたの市 市島海 川
あつたの市 市島海 川

あつたの市 市島海 川
あつたの市 市島海 川

あつたの市 市島海 川
あつたの市 市島海 川

あつたの市 市島海 川
あつたの市 市島海 川

あつたの市 市島海 川
あつたの市 市島海 川

あつたの市 市島海 川
あつたの市 市島海 川

あつたの市 市島海 川
あつたの市 市島海 川

あつたの市 市島海 川
あつたの市 市島海 川

あつたの市 市島海 川
あつたの市 市島海 川

あつたの市 市島海 川
あつたの市 市島海 川

あつたの市 市島海 川
あつたの市 市島海 川

あつたの市 市島海 川
あつたの市 市島海 川

あつたの市 市島海 川
あつたの市 市島海 川

生橋 いかし橋 糸物 海より 後の橋

安古の橋 糸物 糸物 糸物 糸物

かろの橋 糸物 糸物 糸物 糸物

弁橋 糸物 糸物 糸物 糸物

いせの橋 糸物 糸物 糸物 糸物

糸物 糸物 糸物 糸物

糸物 糸物 糸物 糸物

糸物 糸物 糸物 糸物

糸物 糸物 糸物 糸物

糸物 糸物 糸物 糸物

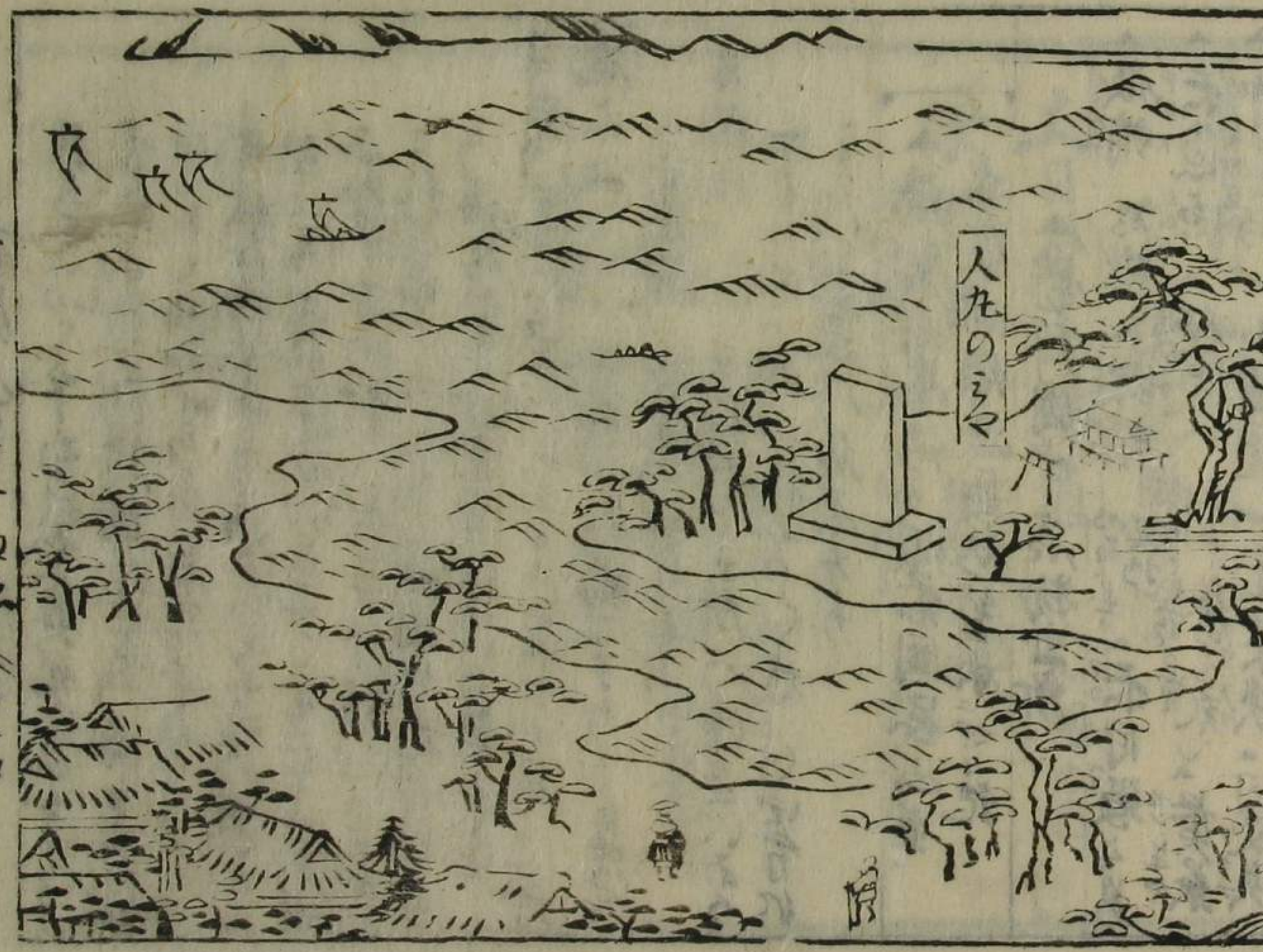
糸物 糸物 糸物 糸物

糸物 糸物 糸物 糸物

糸物 糸物 糸物 糸物

糸物 糸物 糸物 糸物

播磨之國 明石の浦



Vertical text on the left margin, likely a page number or reference.

尾上松
 尾上松は、播磨守の御所あり。松の葉は、人の命を救ふ。松の實は、人の心を安んず。松の皮は、人の病を治す。松の根は、人の魂を固くす。松の葉は、人の心を清くす。松の實は、人の心を豊かにす。松の皮は、人の病を治す。松の根は、人の魂を固くす。

大日本山陽道
 八ヶ國の内
 大日本山陽道、八ヶ國の内。大日本山陽道、八ヶ國の内。大日本山陽道、八ヶ國の内。大日本山陽道、八ヶ國の内。大日本山陽道、八ヶ國の内。大日本山陽道、八ヶ國の内。大日本山陽道、八ヶ國の内。大日本山陽道、八ヶ國の内。大日本山陽道、八ヶ國の内。大日本山陽道、八ヶ國の内。

英作園
 上叢七段
 東西三百餘
 田穀 壹万六千六百十六丁
 英田 勝田 菅西 菅東
 久米 大庭 吉徳

津山御城
 百七十一丁
 松平越後守齊春
 拾万石
 永見小刑部
 山田伊賀
 安藤倫存



齊敏 伴与吉
臣四位持良
 実松平世之後裔齊具男

尚藏先主之次男

宇喜多和家直家 日中納言秀家
キンゴ 美濃守ヨリ継主
 金吾中納言秀秋 同七年卒

池田三右衛門輝政 日八ヶ世万石ある

松平左衛門督忠徳 輝政二系 日言

日 奥内少輔忠雄 日 三男 日言

・定永九孫子相持吉光仲
 國分守天海隆主

松平新右衛門光政 皇政五分 日言

・後大信長判陸男

新田御領主 日言 百七十八里

池田信俊吉政 庄山勅助
二ヶ三ヶ 武万石ある

御中 上候 美濃守
 ・系乃のくま



信の 日言
 御 日言
 御内室 日言

御 日言
 御内室 日言

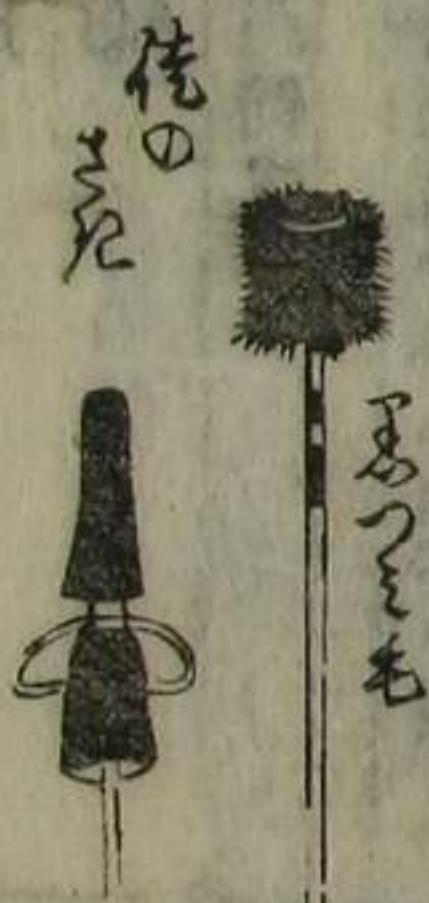
川家系 畠山御領主 日言

御野郡 新田御領主 日言 百七十里

池田丹波守政弘 長友新左衛門
マサナリ 長友新左衛門

御内室 松平左衛門督始

御殿 上あこ下
 ・下あこ小茶飯



信の 日言
 御 日言
 御内室 日言

坂本名石 十三 坂下 四十九

附
所
内
家

御家系ハ前々同ト

尚國神社之記

石上社

赤坂郡
石上ノ傳ニ里許ニ在

祭神 布都御魂

尚國ノ事ニ志ヲ為シ大地ノ斬リノ御魂
韓妙ト云コレト云々神君ト云々神記
小千正叔今昔傳神記乃許小五ト云々
又大和國石上布都社小細リ云々
の正叔あり云々神天皇正叔云々大和國
山色縣云々

酒折社

石上石園ニ在

祭神 一應

日本紀 日本武尊日之國入リ
多良ノ死乃乃方華陸と傳テ甲斐
國小川ノ所也云々

て金沢をいし是夜奇を以て信ふに因
て云 昇 亦いり飛渡河之云々
孫乃 乃乃信名言へ云々
則に楊氏素云々云々
素云々云々
人乃 願と云々教く素云々
情字史生云々
所傳連云々

東照宮

石上ニ在 社於石上 別當判老院

八幡宮

下聖國日老山東照宮ニ在 勅傳云々

小幡宮

石上ニ在 傳傳云々

小幡神社

石上ニ在 傳傳云々

當國中佛欄

金山寺

石上ニ在 寺於石上

安堂院

石上ニ在 傳傳云々

妙光寺

大漢村ニ在

佐治國中ノ心ノ記

神村山

名不集ノ山也

度良ノ浦

かろし油

神徳

多知 花ノ山

大徳丸

名不集ノ山

史の世

多知 花ノ山

小徳

多知 花ノ山

牛心

多知 花ノ山

最ノ山

多知 花ノ山

最ノ山

多知 花ノ山

最ノ山

多知 花ノ山

最ノ山

多知 花ノ山

最ノ山

多知 花ノ山

最ノ山

多知 花ノ山

最ノ山

多知 花ノ山

最ノ山

多知 花ノ山

最ノ山

多知 花ノ山

最ノ山

多知 花ノ山

最ノ山

多知 花ノ山

最ノ山

多知 花ノ山

最ノ山

多知 花ノ山

最ノ山

多知 花ノ山

最ノ山

多知 花ノ山

最ノ山

多知 花ノ山

最ノ山

多知 花ノ山

最ノ山

多知 花ノ山

最ノ山

多知 花ノ山

▲養靈天皇弟三の御子種彦天皇
御弟の御子種彦天皇の御子種彦天皇
其後大長其後胤なり

松山御城主 松山百六六リヨ



板倉河波吉勝職

板倉内匠 月 劫ナ由

御内室 又一万石

御座し 上弁さる由
中本様下 下本台
・赤三密わりの川・大坂を渡りし由



御嫡 板倉新十郎

附 駕 月 日

かぶの 御座し 御内室

板倉氏由家系

源勝 横川八右衛門 板倉長由
後四位信房 是乃高直氏と板倉氏
板倉氏存後也

勝職

延喜子元ヨリ板倉氏胤之

庭敷御願主 板倉 百七十八リ

板倉越中吉勝資

板倉 伴 川村 幸 水

御内室

上ト管束の事ト 下せんご本
文取の事ト 丁目



御嫡 板倉利之丞勝貞

御座し 御内室 附 月 日



御内室 佐のさね

馬 押 三 白

御家系松山御城主と同日
元禄四ヨリ板倉氏代々胤之

園田所領主

江戸が百八十里

伊東掃部長寛

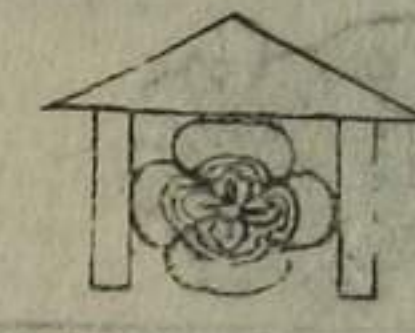
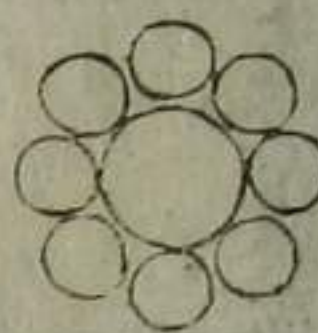
十ガヒロ

山石助方
本崎牧者

河内宝東長岡守姉

御座一尺

上さうがく丁・下せんご本
下りさうがく丁



伊東主税

御座

立川三平
福徳寺左方

伊東氏源家系

藤原長實

長寛

長祥



辰之助
天龍丸を喜ぶ

女子



寛永中
伊東氏

主税

西園神社之社

吉佐保氏

祭神

吉佐保武彦 佐守佐中
人皇第七代者靈天皇三世乃皇孫
佐保命也 以從日本紀と風去記と符合
せりとす 外に北溪と稱するのれ思ふ

風去記のでり加美原郡佐勢所社の東
小川五宮殿川と名づく川のありて吉佐
保日よれ史よりけ二世乃王の故不史殿
と稱くとす 一社祇正宗之云人皇世
代持古帝即位之元年之社社一あり
とす 社説云

本宮者靈帝神
岩山地之社
新史吉佐保氏
傳説者人形殿あれが
徳く
河内よりて市は

仁壽二年二月依中國吉佐保命
社と宮社と列ス同年七月封社と充て

二万七里 板く橋を宿あり海あり

吉原村よりあり 糸物 糸日 糸日 糸日

今津 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日



福山御城主 糸日 百九十四りす

阿部保徳正寧 下宮三つちら 内坂南ちら

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

糸日 糸日 糸日 糸日 糸日 糸日

阿部氏家系

阿部正俊

三十一 阿部 若九郎

其子阿部正俊と其子阿部正俊と其子阿部正俊と其子阿部正俊と其子阿部正俊と

正寧

伊藤

宝永七ヨリ阿部氏以之

阿部神社之記

渡社

阿部神社

祭社

船玉令

阿部神社之記

傳云阿部切望居三津尾居山阿部乃時以浦子船楫とて入る會船と積を以て

渡の地として船の綱とて以て社を以て一弦以舟玉社と河を以て以て社とて綱とて

渡隅社

右日所

号綱新岡

祭社

二座

山阿部紙屋

祭 六月十四日 社に於て阿部氏古記に由

吉留社

府中

阿部中園吉留社

美安社

社

祭社船楫

惣社

惣社

祭社大己貴令也

不勒寺

福山

本寺不勒

同傳圖之記

福壽院

二座

宝徳寺 福宗

如來寺

福山

吉祥院 律古

妙光寺

三上

同名所之記

志

志

阿部氏

志

志

阿部氏

志

志

阿部氏

志

志

阿部氏

志

志

阿部氏

志

志

阿部氏

志

志

阿部氏

勝表

元和元ヨリ松平氏以之

内
禮分

江戸右内所

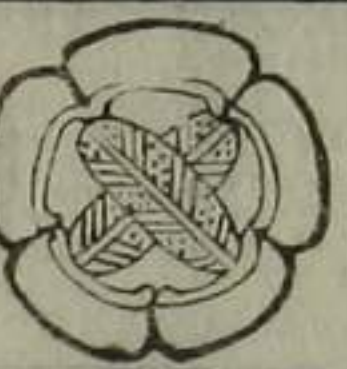
松平英化吉長朝

二万石

西右膳
出陣十々

御内室

御座
上喜山おんてん



押
駕
附

御
嫡

御内室

御家系ハ廣傳法藏主ト同

為國神社

殿
傳社

社伝 江戸家系朱印在 國主の御

祭神

市杵御姫

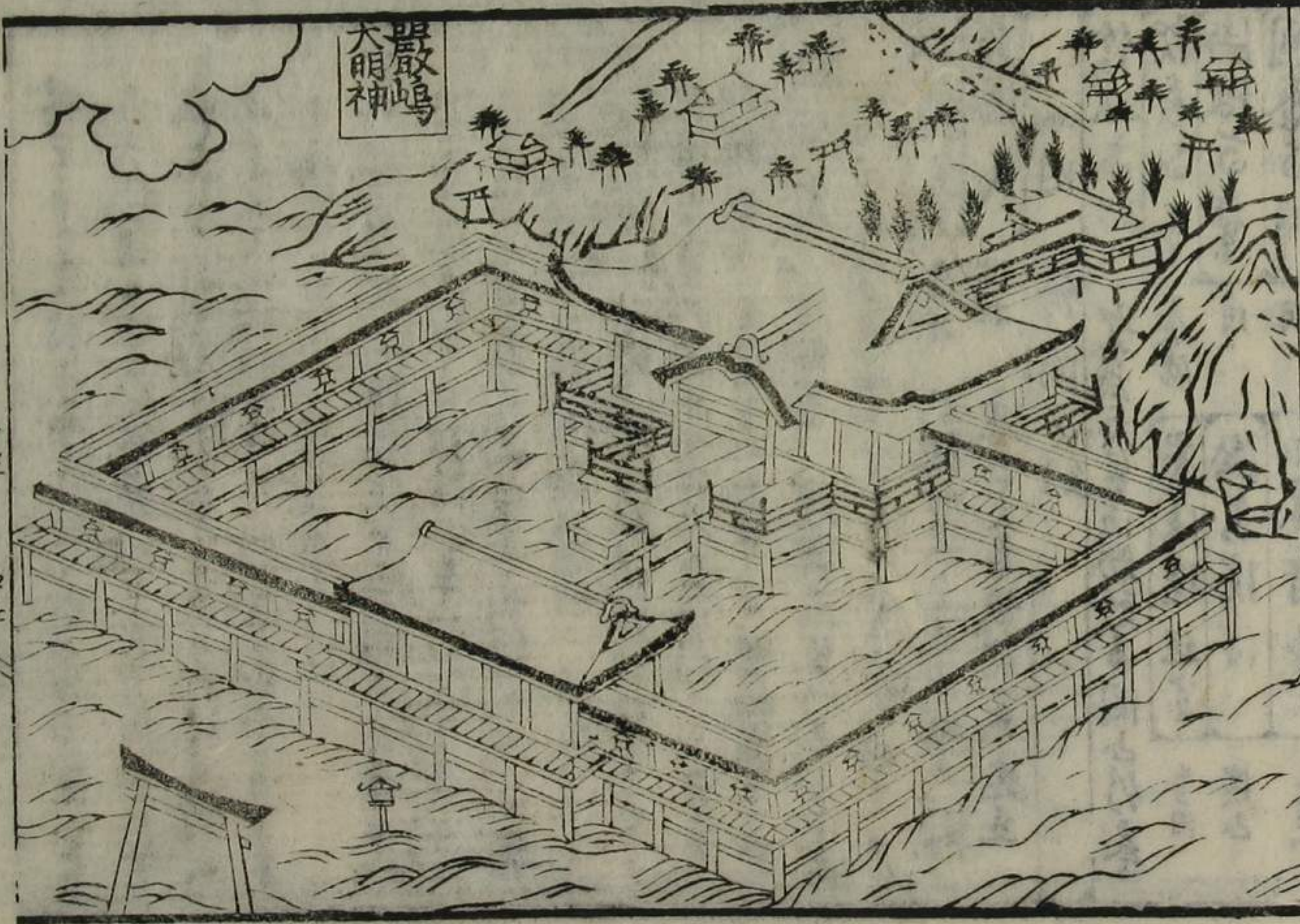
為國一宮

天照太神 素盞鳴尊乃八坂渡の曲玉と
 のり之化生まけ神と市杵御姫命と共々
 是を瀛小浜まけりの之 日本紀乃三女内之
 惟古天皇此五年十月十二日内舍人佐伯
 織職と云者細路思賀乃為傳の意より種
 也一ける西方向り紅の帆あげらぬを來
 る船中へ瓶を瓶乃内小待と云く未幣を
 付りて内小三人のそ女あり宮橋邊殿
 更不人形不唯唯流宮一々云前百五々後
 の乃小本也ををあれて王城小走づく宴飯
 并ふ廻廊百八拾石造立一々若と殿傳大
 此神と思むべし緋職と云くつらあるあし
 てる宮妻と云くことアレ此神乃云王城
 乃辰天小宮星是光ありて出現せん云
 亦神不絶々々を怪と云くべし時小群鳥
 あれくありまのりたる神の輪と云く人と
 宮より神云のてく即は乃國たふいの
 王城小傳小千鳥來り神の枝と云くを夢
 裏不鳴鳥の緋職と云くを中々ハ大の神
 現瑞ありと天皇去の獻伝ありては傳國所
 由傳松山八千町近封戸乃室有と云く

乃上同永十二月廿八日... 以後の同領任の官更毎至上分田と持
べー神威と權にへう... 社以破壊類例の時に高任の園目官
費とへく園中の祀と懸く... 千石材木松皮赤と... せん
らんとあり 巻表記

即位貞統九年十月十三日... 安藝嚴島神社の社... 左の聖太... 延喜式... 十二万石... 時の廻廊... 時ふゆ... 時ふれ... 中の人... らせで... 彼出神... ありん... あり廻廊

安藝志云之國 宮嶋



晴くくくを流ふもを修るふ小麻とり
らざれば山ふり小煙麻吹多小麻あらし
流末おれをむしり多さうりた修り何ん
形さ今も山社さういんれさむたりしを
中修人さ修り 提集抄

古社遷建立推古天皇の始りて後平
清聖再興まの弘法二年此比陶晴賢
滅亡乃時去大凡又後小毛利大に之
建立百八十石此地あり

池内前

甚靈驗 嚴崎山同修あり

換の宮

日影 神武天皇つゝ一由
仙代の由時山田園ふりてりて皇孫の而とこ

八幡宮

廣徳 正親町院元龜中延立 日影

天満宮

日而 建武元年依 院立 建立

佛園

竹林寺

聖武天皇山初起る用山竹奉

教養寺

廣徳 善法院 線宗 寺因

海福寺

日 海福院 日 廣山

圓養寺

日 如來寺 淨土 上月而

名取

山月く勝 昭神乃由事たさく考すれ
修のけいさ提集抄と引りたわむり
おんが修し云く昭神は修のふを破り
さるさるの月と云ひしり山月く勝
号とくく又市井時昭乃修修す
と謂ふも何ん麻多し 糸流公孫の修
小万の此地 夫本 昭神の修りてりてん
修伯 出合乃修あり 修社あり
小万里 本の一也
これらさる名取さる一古未考
そ非名取さるもさる

名物名取

紙靴 廣徳 葛籠 塩漬 水足
雷師 蒲苳の志やあり
野沙浮網 西條柿 新城さうい
法口紙 安芸國分以上

大日本山陽道 八ヶ國の内

周防國 防瓦

上後六段 東西二日 田敷七あ六百七十七町

桑葉籠甲此取多し去産徳圃
 卜信以能りりりり名と記れ

中上園あり

大嶋 玖珂 都瀧

右浦 魁毛 佐波府

知り言 拾六万石に百廿石

徳山沖領主 二百四十二丁

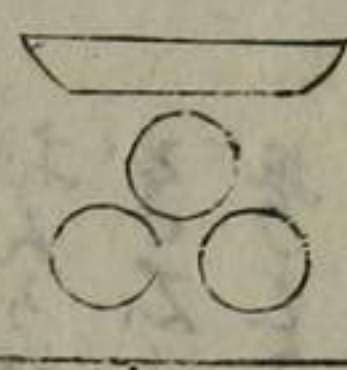
毛利日向寺廣徳 栗原幸徳
 三万石 宗右左内務



脚内宮社元徳三子姉
 所也・上りま今井・下二本板
 一死 大坂よりりり

二本 柳地
 毛 柳地
 花の光

印 柳地
 婿 柳地
 新内宮



長州系ハ長州扶直派主ト一系

長員 吉川監物 居城岩園 三万石

▲内園神社之起

玉祖大明神 伊波丸 内園一宮

▲祭社 玉皇命 伊波宿若男一宮祀

▲祭社 伊勢両志社氏之

社家注を云 尚内内外乃二宮ハ永志
 十七年十一月上旬大内事ハ朝臣
 三位左系志文貴典友の事ハ小内
 伊勢園 伊勢園 伊勢園 伊勢園
 伊勢園 伊勢園 伊勢園 伊勢園

山口社 山口 祭社 奉天王

山口の祇園と号し 社家注を云永志
 年中 復原屋の 國氏龍死を
 志甚多し 仍て大内事其これと相
 伊勢園 伊勢園 伊勢園 伊勢園

朝倉氏 伊勢 八幡宮

人皇又十六代清和天皇を祀る年以て
 建之勅信ハ社社院式

伊吉内社 磯部村 伏見院永仁年中に

▲長門之氏名ハ元門ト云日本紀ニ多仲夏
天皇始ト云リ元門之稱の宗ト云々
萩 河城主 二百七十一

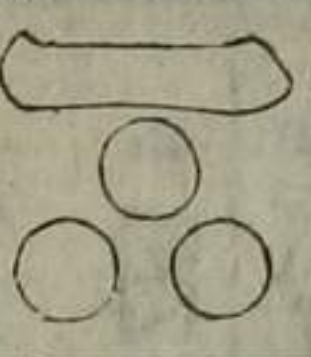


松平大膳大夫齊元
二指六方九糸石ヨ

河内守齊興姫



黄長革
内金紋



所 松平修徳大夫齊廣
附

河内守



内金紋

押馬
きぬ
さとり
えん
わん
み

附

押日乃

駕日乃

・上昆吾河内守・中弁三由・下あま
・系始々々々
・大坂田舎人ヤを
・大は新甲

松平氏河家系

平城天皇之皇子河保親王之後胤
関東執權大膳大夫大膳元十五代之孫
毛利右馬助 陸奥守
大江元就 十洲之大将
其相之叙
蒙勅并
贈三位

齊元 大膳
右夫

齊廣 陸奥
右夫

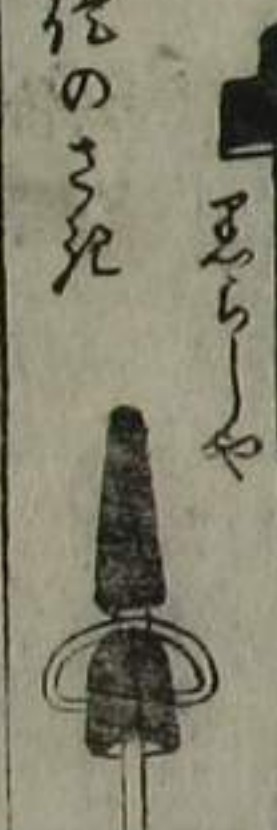
慶長中ハ毛利家居之

府中河城主

二百八十一

毛利甲斐守元茂
五万石ヨ

河内守



所 毛利雅之助元盛
河内守土屋お持お姫

細川中勢
毛利初之由
三吉内系

押馬
ノ

か
こん

附

馬つ？
押 日引

位のまね
押 日引
手
りん

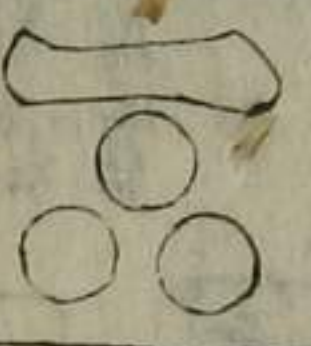
上りきり日引が
下白く子乃坊
き・系三系正地
・大坂神の傍し
【正家系、後正家主ト同ト】

清太郎領主
二百八十り

毛利源俊元世

内蔵俊元
平能々太妻

御内室毛利甲斐守忠女
御居一丸
上りここれ下
下小日向の平坂



御家系 大月形

△中園中神社之記

檀香神社 志浦班
△底意男 中筒男 表筒男 一良記

神切堂后十一年在の園中浦小亭後
又云位吉志神を此意
流泉小戸小亭後 神切堂后

三韓と仰ぐ多時松列の記
云美健記と乃無たりと因く
地此意公作吉と云志浦那河乃位吉六指
列乃地此意中々これと通縁
△位位 貞親十七年十二月廿日位位
社乃上梅乃伏見院永仁二年八月十八日

和布荊社
△桑林 彦火と出見
当社と和布荊社と云り毎年除夜の
事ふかすは海の御ひりく神人候也
りて海底に入ぬは和布生起あり
これと荊ありり乃止是れ小社あり
備ふし是とめり乃神子と云く成り
ゆい此社愛あり又早祈の神成り

八幡宮島山社
△中殿 彦神帝
△人皇 十六代清和天皇乃貞親元年
△宗 彦乃内乃高乃高乃小乃乃
△天満 彦乃乃乃

天満彦
彦乃乃乃

彦乃乃乃

彦乃乃乃

彦乃乃乃

彦乃乃乃

彦乃乃乃

彦乃乃乃

彦乃乃乃

彦乃乃乃

彦乃乃乃

彦乃乃乃

一 日國佛閣

外宮寺

兼立後云門院 文治年中

観音寺

兼立 本寺十一面観音

光徳院

長府立 弘法大師開基所

八松院

凡徳立 後深茶院 建治元年

長樂寺

中川村立

下宮

兼立 尚志仁安徳久皇乃

此院を此外平氏一院乃観像を平家
ゆつ小末らかと云いけちけり

▲長門國船名

西船山

後不集 出り

古船

古船整二つ併せられ 後不集の事 板上市女

土りの船

手の船の事 船の事 船の事

赤らるる船

信下の事と云り 山と云り

七里

七里は船の廻船乃 漆と云 船名乃

津あり

津あり 船の事

安武乃松原

安武乃松原 船の事

松原

松原乃 世傳ふん乃の船と云 船の事

今更

今更 船の事 船の事

あはれ海

あはれ海 船の事 船の事

わらわの船

内船

内船 船の事

長門乃

長門乃 船の事

芝浦乃

芝浦乃 船の事 船の事

乃社 檀乃 船の事 船の事

奥津 平津 船の事 船の事

乃二 船の事 船の事

平乃 船の事 船の事

門目

門目 船の事 船の事

実と云 船の事 船の事

回船 船の事 船の事

小の事 船の事 船の事

の事 船の事 船の事

乃地 船の事 船の事

と云 船の事 船の事

名石 船の事 船の事

祝 船の事 船の事

回井

回井 船の事

▲西國渡

▲播列 船の事 船の事

▲佐 船の事 船の事

▲佐 船の事 船の事

▲佐 船の事 船の事

▲佐 船の事 船の事

安藝廣徳 日廣徳 石見玉湊田
依方郡山 因幡國多取 日市 佐後國
倉吉 日市 佐後國戸川 佐後
乃松江 佐後國 佐後國 佐後國

▲播磨國津島 岡山 廣徳 長門
新と一乃屋

廣徳 加徳 四里 英他國 佐後國 佐後國

加徳 三石 三石 三石 三石

三石 三石 三石 三石 三石

加徳 三石 三石 三石 三石

佐後國 岡山 日市 日市 日市

川島 佐後國 佐後國 佐後國

河内 佐後國 佐後國 佐後國

佐後國 佐後國 佐後國 佐後國

西条 西条 西条 西条 西条

安藝國 廣徳 廣徳 廣徳 廣徳

茶津 廿日市 廣徳 廣徳 廣徳

廿日市 廿日市 廿日市 廿日市 廿日市

又場 三吉 十里 又場

三吉 三吉 三吉 三吉 三吉

用防 用防 用防 用防 用防

今市 今市 今市 今市 今市

雙子 雙子 雙子 雙子 雙子

天林 天林 天林 天林 天林

山口 山口 山口 山口 山口

長門 長門 長門 長門 長門

廣徳 廣徳 廣徳 廣徳 廣徳

中地 中山 中山 中山 中山

市本 今市 今市 今市 今市

石見國 廣徳 廣徳 廣徳 廣徳

長門 長門 長門 長門 長門

廣徳 廣徳 廣徳 廣徳 廣徳

中地 中山 中山 中山 中山

市本 今市 今市 今市 今市

石見國 廣徳 廣徳 廣徳 廣徳

長門 長門 長門 長門 長門

廣徳 廣徳 廣徳 廣徳 廣徳

長山 長山 長山 長山 長山

國中 國中 國中 國中 國中

國中 國中 國中 國中 國中

